

# 1人でできる・みんなとできる ＜教え方の改善＞



公益財団法人 交流協会

2012年度 第1回日本語教育巡回研修会

2012年11月9日(金)・10日(土)・11日(日)13:00～17:00

国際交流基金日本語国際センター 八田 直美

(Naomi\_Hatta@jpf.go.jp)

# 今日の目標

自分の教え方を改善するための[ **第一歩** ]を  
それぞれが発見すること



- ・どうやって課題や問題を発見するか
- ・どうやって改善案を考えるか
- (・どうやって改善を実行するか)

# 今日の目次

1. 「教え方を改善する」とは？
2. 教え方をふり返る  
　　＜休憩＞
3. 教え方を改善するための活動  
　　＜休憩：コーヒーブレイク＞
4. 「私の改善」、いろいろな改善
5. 質疑応答・補足



# 1. 「教え方を改善する」とは？

「今の教え方よりも〔より効果的な〕教え方を考えて実践すること」

そのために必要なことは.....

- (1) 日本語教育や学習についての新しい知識や技能を学んで身につけること
- (2) 自分の教え方を〔**ふり返る**〕こと



# 質問1 教師のさまざまな悩み

同じような悩みを経験したことがありますか。

- ①学習者が小さい「つ」(促音)が言えません。
- ②「は」と「が」を初級の学習者にどう説明したらいい？
- ③初めて中級を教えます。初級の教え方と違いますか。
- ④学習者は、文法はよくできますが、話せるようになりません。どうしたらいいでしょう。
- ⑤自分でテストを作ろうと思います。注意することは？
- ⑥教え始めて3年、授業に新鮮さがなくなってきた、ちょっとつらいです。

## 質問2 改善が必要な理由

教師の教え方に問題がなく、学習者が熱心に参加できる授業をしていれば、教え方を改善する必要はないでしょうか。自分の教え方に自信がある教師は、ずっと同じ教え方を続けていればいいでしょうか。

### <ヒント>

初めて日本語を教えた頃と今と比べて、何か変化がありますか。.....学習者、教材、社会環境など

## 質問3 教師の課題と経験

3人の中で一番経験が長い教師は、どの人だと思いますか。

A先生： 学習者が楽しく勉強できるように、いろいろな活動を取り入れて授業をしています。学習者も楽しそうに授業を受けているし、テストの結果からも授業の内容を理解していることはわかります。でも、学習者の話す力をなかなか伸ばすことができないのが悩みです。

B先生： 学習者から「窓が開いている」と「窓が開けてある」のように、自動詞と他動詞で表現することができる文について質問されました。自分ではなんとなく違いがわかりますが、学習者にわかりやすく説明することができなくて困っています。

C先生： 新しい教師の指導をすることになりました。指導といっても、私の授業を見てもらったり、困ったことがあったときに相談にのったりするくらいです。授業を見てもらうために、授業準備と、授業後のフィードバックに時間がとられるので大変です。新しい教師の指導法について勉強する必要があると感じています。

# なぜ「教え方の改善」は必要？

1. 学習者のためによりよく教える
2. 周りが変わる
  - ・機関や[ **学習者** ]
  - ・教育や学習理論の発展 例[ **第二言語習得理論** ]
  - ・社会の変化 例[ **ICTの発達、少子化** ]
3. 教師(自分)が変わる
  - ・[ **経験** ]、役割

## 2. 教え方をふり返る

ふり返る方法	だれが情報	ポイントを決める？
① チェックリスト	教師(自分)	決める
② 授業日誌	教師(自分)	決めない
③ 学習者アンケート	学習者	決める
④ 授業の録画・録音と文字化	教師(自分)	決める／決めない
⑤ 教師同士の授業観察	他の教師	決める
⑥ 教案	教師(自分)	決める／決めない

# ① チェックリスト

大事だと思っていることや確認したいことをリストにして、授業の後でチェックします。

- 例)
- ・授業はうまくいったか
  - ・学習者は目標となることを学んだか
  - ・授業は学習者のニーズと合っていたか
  - ・授業の難しさは適切だったか
  - ・学習者全員が授業に参加していたか
  - ・次に同じ授業をするとき、同じ内容や方法にするか

チェックの仕方は○×、点数、理由、コメントなど

## ② 授業日誌

授業の後で、授業中に感じたことや気づいたことを書きます。

例)

○月△日(×曜日)

今日の授業では、環境問題に関する意見文を段落ごとに読んでいった。学習者からの質問は1つだけだった「～べきだ」と「～なければならない」の違いについての質問だった。私から学習者にした質問は、文の意味の理解を確認する質問がほとんどだったが、1つだけ文章にない質問「買い物をした店でレジ袋をもらうことについてどう思うか」をした。すると、指名しなくても、Aさんが「家の近くのスーパーでは、レジ袋のお金をはらいます。それはいいと思います」と意見を言った。他の学生は何も言わなかった。

## ③ 学習者アンケート

学習者が授業や学習についてどう思っているかアンケートをして、その結果から教え方をふり返ります。

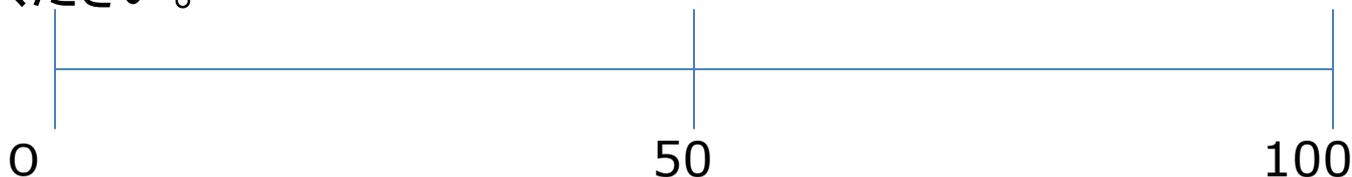
例) (1)方法

- ・いつ、何回するか
- ・どんな言語を使うか
- ・どんな答え方か(スケール、選択、記述)
- ・学習者の名前を書かせるか

(2)内容

- ・目標を達成したか
- ・役に立ったこと、おもしろかったこと

例1) 今学期の目標「自分の経験についていくつかの文をつなげて話す」はどのくらいできるようになりましたか。十分できるようになった場合を100として教えてください。



例2) 今学期の授業を受けて、いくつかの文をつなげて話すことができるようになりましたか。

4. 十分できるようになった。       2. 少しできるようになった。  
 3. だいたいできるようになった。       1. まだできない。

例3) 授業の中で日本語力を伸ばすのに役に立つと思ったのはどの活動ですか。下の中から3つ選んでください。

- a 聴解 (    )                      b 読解 (    )                      c ロールプレイ (    )  
d ミニ・スピーチ (    )              e 宿題 (    )                      f 小テスト (    )

例4) コメントシート      クラス (    )      名前 (    )  
1) 今日の授業について                      2) わからなかったこと、質問など

## ④ 授業の録画・文字化

自分がやっていると思っていたことと実際やっていることが違うことがあります。授業中とは違う見方で学習者を観察することができます。

- 例)
- ・教師の話す量や話し方
  - ・どんなやりとりが起こっているか
  - ・学習者の様子

絵を見ながら、動詞の可能形の練習をします。

T:じゃ、絵を見て練習しましょう。1人1枚。絵を見ますね。どうぞ、どうぞ。絵を見ましょう。例のところですけど。マリアさんは1キロ泳げます。1キロ泳げます。泳げます。泳げますね。じゃ、1、見ましょう。1は...

S1:手紙。

T:手紙ですね。はい。

S1:日本語の手紙。

T:日本語。何をしていますか。この、マリアさんは...

S1:書きます。

T:書きます。はい、さっきのように。書きます、書けます。じゃ、例のように言いましょう。マリアさんは...

S6:手紙を書けます。

T:手紙を書けます。ええーと、手紙を書けます。ええーと、手紙を書きます。手紙が書けますね。じゃ、2を見てみましょう。何をしていますか。マリアさんは何をしますか。.....

## ⑤ 授業観察

ほかの教師に授業を観察してもらい、気がついたことを教えてもらいます。

- 授業の前に、何を見てほしいか話します。
- 授業の後に、授業について話し合います。

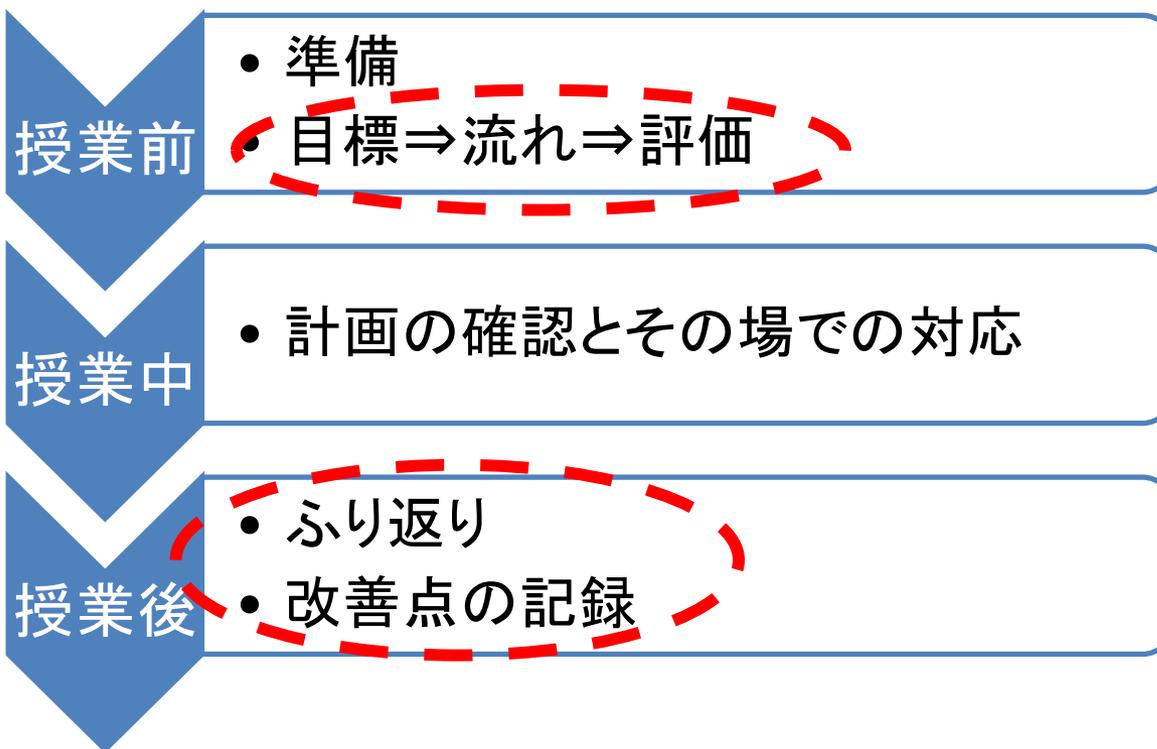
<授業観察シート>

月 日( ) : ~ : クラス名  
授業担当教師名: 観察した教師名:

(1) 学習者は目標となることを学んだか	そう思う 4	3	そう思わない 2	1
(2) 学習者全員が授業に参加していたか	4	3	2	1
(3) 教師の指示や説明はわかりやすかったか	4	3	2	1
(4) その他、気づいたことを書いてください。				

## ⑥ 教案

あなたは教案を書きますか。何のために書きますか。  
書いた教案はいつ使いますか。



### 3. 教え方を改善するための活動

(1) 1つの課題をみんなで考える

タスク 1

(2) それぞれの課題をみんなで考える

タスク 2

# タスク1 1つの課題をみんなで考える

学習者のやる気を引き出したり動機を高めたりするためにどんなことをしていますか。



# やる気を引き出す授業のテクニック

- A ほめる・励ます
- B テストをする
- C 仲間意識を育てる
- D 一人ひとりを大切にする
- E 学習者が興味を持つものを使う
- F 個人的なこと、本当のことを使う
- G ちょっと難しいレベルにする
- H 活動の目的、ゴールをはっきりさせる

感情

達成感

主体性

国際交流基金『日本語教育通信』「授業のヒントーやる気を引き出す授業のテクニックー」(参考文献・参考サイト参照)

## タスク2 それぞれの課題をみんなで考える

大学教師M先生の場合①： 問題の発見→相互アドバイス



既習者だけど、初級の定着はバラバラ。復習が必要だけど、初級の教科書はちょっと...

目標を明確にしたら？

技能中心はどう？

学生に授業報告書を書かせたら？

## 大学教師M先生②： その後の経過と気づき

学生に希望を聞いて、歌を使って文法の復習を行った。学生が積極的になった。

学生もいい  
アイデアを  
持っているんだ

...



## 大学教師L先生の場合①： 問題の発見→相互アドバイス



他の学生よりよくできる学生、問題も早く終わって時間をもてあましているようだ...

答えは正しい？

特別な課題をあげたら？

先生のアシスタントをさせたら？

他の先生と相談してみたら？

## 大学教師L先生②： その後の経過と気づき

他の先生と話し合った。特別な課題は与えないが、上級生の選択クラスに出られるようにした。

他の先生はその学生の違う面から見ていた。他の先生と話してよかった。



# みんなで考える利点

- ①さまざまな〔 **視点** 〕に気がつきやすく、より多くの〔 **改善方法** 〕が得られる。
- ②助け合い、〔 **励まし合って** 〕、それぞれの解決や改善に取り組むことができる。
- ③ほかの人に話すことで、〔 **自分の問題** 〕がはっきりわかる。
- ④ほかの人の課題を聞いて、解決を助けることで、〔 **解決の練習** 〕をすることができる。

## 4. 「私の改善」を考える

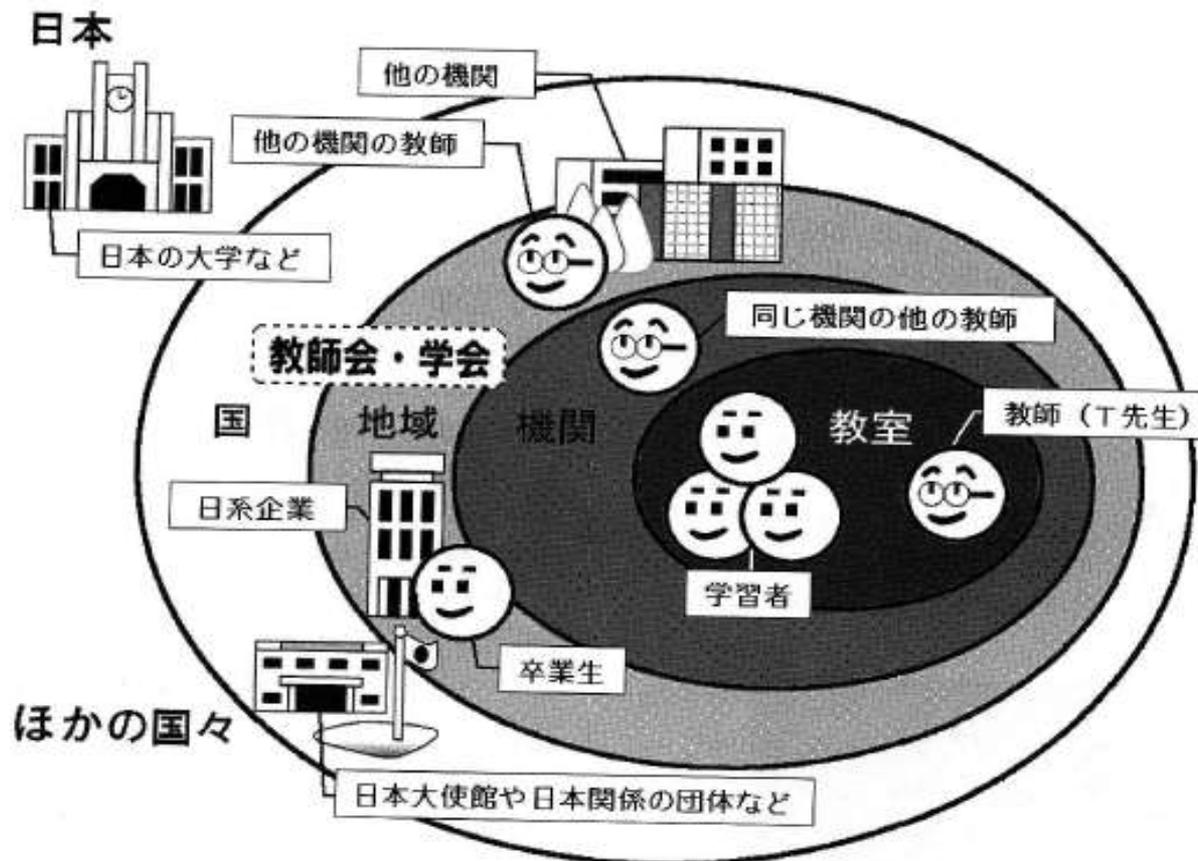
### タスク 3

AまたはBを選んで、4、5人でグループを作って話し合ってください。

A) 問題や課題を探す⇒「2. 教え方をふり返る」教え方をふり返る6つの方法のうち、1つを選んで、実行する計画を立てて、他の人に話す。

B) 問題や課題の解決を考える⇒「3. 教え方を改善する」取り組みたい課題や問題を他の人に説明して、質問や経験(アドバイス)を聞く。

# いろいろな改善①日本語教育ネットワーク図

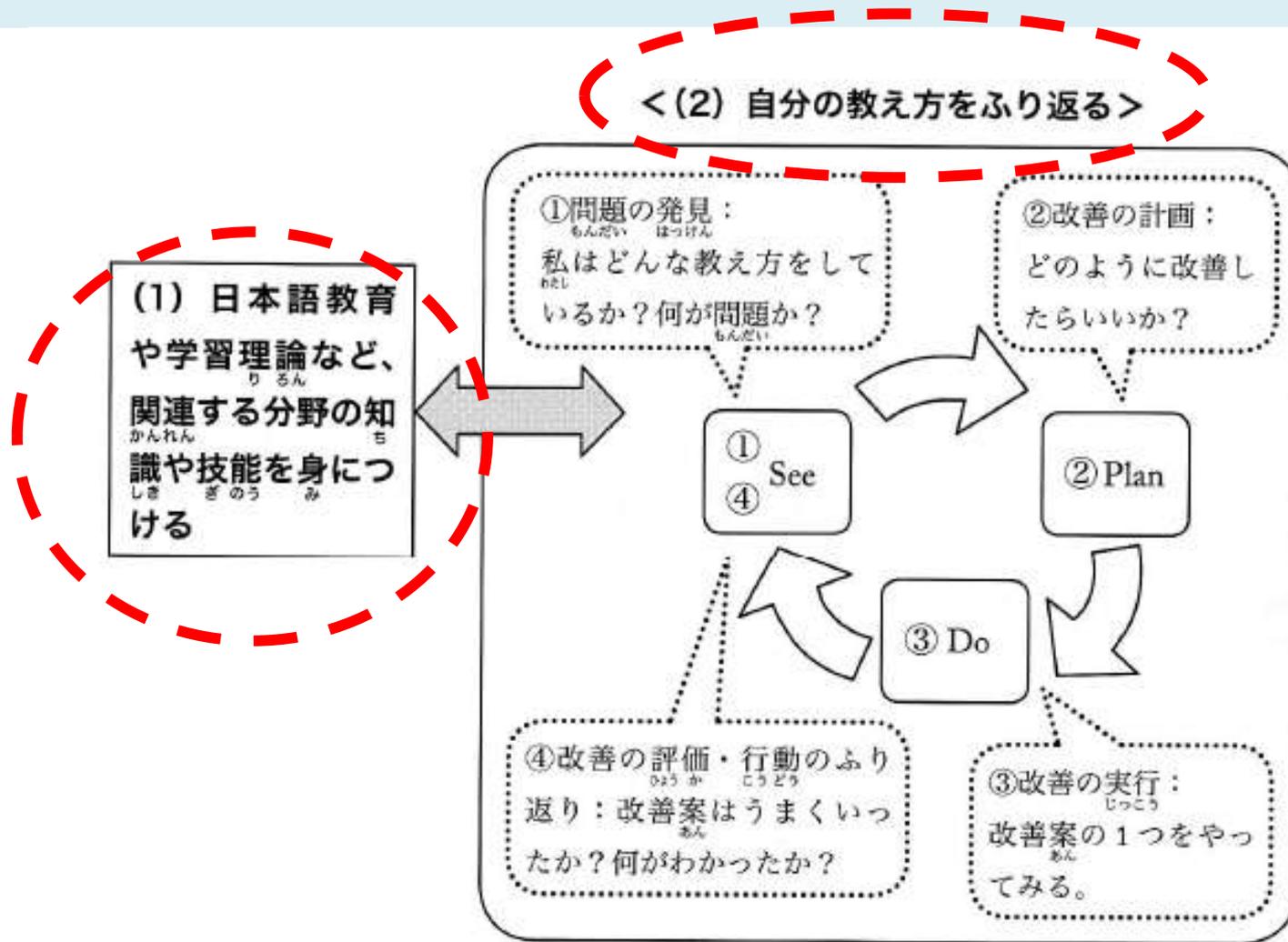


## いろいろな改善② これまで・これから年表

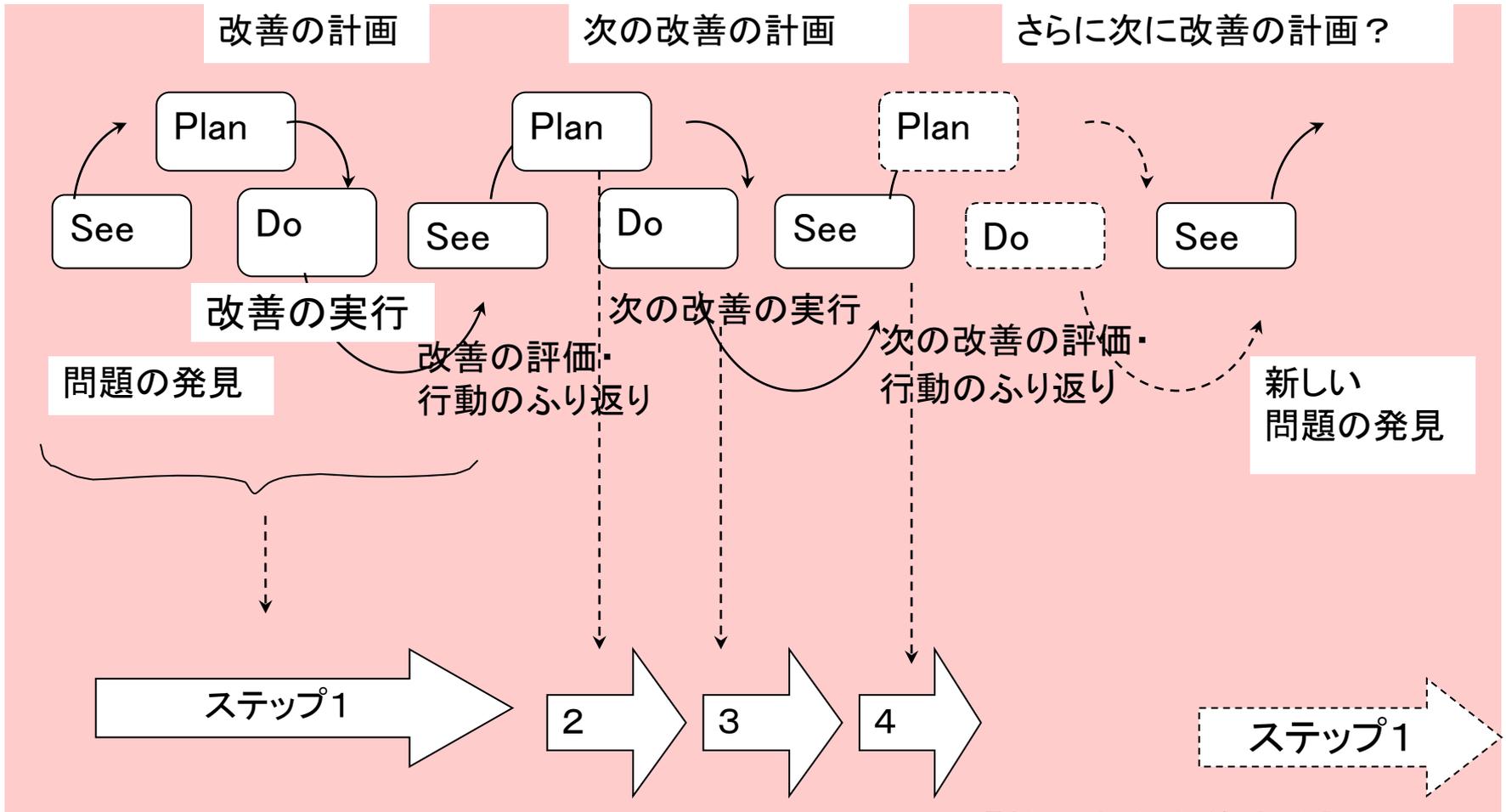
自分の「これまで」と「これから」を考えてみましょう。

年(歳)	したこと／したいこと	印象的な出来事や希望
1998年 (16歳)	〇〇高校で第2外国語として日本語を学び始める。	ひらがなが読めるようになった時、とてもうれしかった。
2000年 (18歳)	××大学で日本語を専攻する。	大学3年生の時、交流プログラムで来た日本人の大学生と2週間一緒に過ごした。
2003年	日本語教師をめざす。	
2004年 (22歳)	△△日本語学校の日本語教師になる。	先輩の教師に助けてもらいながら教えた。
2005年 (23歳)	地域の教師会の研修会に参加。……………	

# 再び「教え方の改善」とは？①



# 再び「教え方の改善」とは？②



## 5. まとめ

「私の改善」のヒント(=第一歩)が得られましたか。

「教え方を改善する」ために

(1) 日本語教育や関連分野の新しい知識や技能を学んで身につける

(2) 自分の教え方をふり返る

⇒ 学習者の行動や意見を参考に

⇒ 他の教師と話し合う

1人で

みんなと

自分のため(教師としての成長)

学習者のため

# 参考文献・参考サイト

- 国際交流基金(2010)『教え方を改善する』(国際交流基金日本語教授法シリーズ第13巻)ひつじ書房
- 国際交流基金「教え方のイロハ」(教え方を改善するー授業をふり返るー)『日本語教育通信』  
<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/iroha/201111.html>
- 国際交流基金「授業のヒント」(やる気を引き出す授業のテクニック)『日本語教育通信』  
[http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/hint/pdf/nk56\\_06-07.pdf](http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/hint/pdf/nk56_06-07.pdf)
- 国際交流基金『日本語教育スタンダード』 <http://jfstandard.jp>
- 政策研究大学院大学『日本言語文化研究会論集』  
<http://www3.grips.ac.jp/~jlc/jlc/essay.html>
- 八田直美(2008)「国際交流基金バンコク日本文化センターによるタイ人日本語教師のための水曜研修ーノンネイティブ教師研修における学び合いと研修成果の教育現場での実践ー」『国際交流基金日本語教育紀要』4号、143-155  
<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/bulletin/04/pdf/11.pdf>